

【様式】

## 令和7年度 学校マネジメントシート

学校名( 三重県立白山高等学校 )

### 1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域を愛する若者を育成し、地域の活性化に貢献する取組を行う学校</li> <li>○ 「夢の実現へ ～あなたの好きを見つけよう～」</li> </ul>
(2)	<p>育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)</p> <p>【<u>グラデュエーション・ポリシー</u>】</p> <p>グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自他を尊重する態度を身につけている生徒</li> <li>○ 社会生活を営むうえで必要な基礎学力と規範意識を身につけている生徒</li> <li>○ 地域行事やボランティア活動に進んで取り組み、地域から信頼され、地域の活性化に貢献する精神を身につけている生徒</li> </ul>
	<p>ありたい教職員の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の多様なニーズにきめ細かく対応し、主体的に提案し実践できる教職員集団</li> <li>○ 地域の声を生かした学校づくりに向けて、主体的、積極的に地域と触れ合う教職員</li> <li>○ 目指す学校像の実現という目的を共有し、コミュニケーションと協働を大切にする気持ちのそろった教職員集団</li> </ul>

### 2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈生徒〉 学校生活アンケートでは、9割の生徒が学校生活に満足しており、学び直しの授業による基礎学力の向上や資格・免許の取得支援に期待する声がある。</p> <p>〈保護者〉 保護者アンケートでは、保護者は生徒の学力向上や豊かな心の教育に期待しており、しつけや生活習慣の徹底も望んでいる。</p> <p>〈地域〉 学校運営協議会委員へのアンケートでは、地域は生活指導に力を入れるとともに進学・就職等の進路指導の充実、社会性の育成、地域の活性化への貢献を望んでいる。</p>	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<b>連携する相手からの要望・期待</b>	<b>連携する相手への要望・期待</b>
	<p>〈家庭〉 学校生活、進路、学習活動に関する情報の提供</p> <p>〈中学校〉 多様な生徒の受入れ、入学者選抜に関する情報提供、進学・就職指導、保障</p> <p>〈地域社会〉 生徒の社会性の育成や進学・就職等の進路指導。</p>	<p>〈家庭〉 基本的な生活習慣の確立に向けた指導や、学校の指導方針への理解と協力、あいさつや礼儀・規律などルールやマナーについての指導</p> <p>〈中学校〉 基本的な生活習慣の確立、基礎的な学力の定着、あいさつや礼儀・規律などルールやマナーについての指導</p> <p>〈地域社会〉 インターンシップへの理解・協力・受入や本校との連携強化、学校教育活動への参画・支援</p>

(3)前年度の学校関係者評価など		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業改善やユニバーサルデザインの授業づくりを進め、卒業までに生徒が社会人として必要な資質・能力を身に付けられるように基礎学力の伸長及び定着を目指す。</li> <li>○ 部活動や学校行事、普段の生活を通じて、基本的な生活習慣や粘り強く取り組む態度を確立させ、生徒の規範意識や社会性の育成を目指す。</li> <li>○ 人権尊重の姿勢や態度を備え、自分の気持ちを言葉にし、相手に伝える発信力を身につける学習活動を大切にする。</li> <li>○ 探究活動など地域とともにつくる学習活動を充実させ、その取り組みの成果をしっかりと発信する。</li> <li>○ きめ細やかな指導と地域に根差した学習など本校の魅力を伝え、募集定員を充足する受検者を確保する必要がある。</li> </ul>
(4)現状と課題	教育活動	<p>人口減少に伴い、地元からの入学者が減少し、遠方から通学する生徒が増加する傾向にある。また、義務教育段階での学習内容が定着していない生徒や特別な支援の必要な生徒が在籍している。基礎学力とともにコミュニケーション能力や規範意識を育む必要がある。</p> <p>生徒の自己肯定感を涵養し、課題克服の達成感を伴う教育活動が求められている。</p>
	学校運営等	<p>小規模校であるため教職員数が少ないことから、生徒に豊かな学びを保障するために外部教育力を活用する必要がある。</p> <p>様々な教育課題に教職員がチームとして取り組むことで組織力の向上と業務の効率化を図り、ゆとりとやりがいのある職場環境を維持する必要がある。</p> <p>家庭が抱える課題や困りごとについては、外部機関とも連携して相互に協力する体制づくりを進める必要がある。</p>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<p><u>カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 確かな学力と規範意識の育成 学習指導・生活指導・進路指導の充実を図り、個々の生徒の状況に応じて、社会生活を営む上で必要な学力、生命を大切にする心や思いやりの心などの倫理観、規範意識、社会性を育成するとともに、地域との交流を通じて自尊感情やコミュニケーション能力を育む。</li> <li>○ 小規模校のメリットを生かしたいていねいな学習や、地域とのつながりを大切に活動を中心に、きめ細かい指導とキャリア教育を実践する。</li> <li>○ 多くの科目で少人数制や習熟度別などの講座編成を行う。</li> <li>○ 地域を実習や体験学習の場にした科目や、コミュニケーション能力を重視した科目など、総合的な「人間力」を高める科目群を設ける。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域とともにある学校づくりの推進 地域連携に基づいたこれまでのキャリア教育、学校運営協議会の意見を踏まえ、生徒・教職員がより主体的、積極的に地域と触れ合うことにより、地域からの声を生かした学校づくりに努める。</li> <li>○ 生徒のための教職員組織づくりの推進 生徒の多様なニーズにきめ細かく対応し、自立した生徒を育てる学びが実践できる気持ちのそろった教職員の組織づくりを推進するとともに、校内研修等を活用した人材育成や業務改善、コンプライアンスの徹底に取り組む。</li> </ul>

### 4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	<p><u>アドミッション・ポリシー（入学者受け入れに関する方針）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校生活や学習活動、地域に根ざした体験学習等を含め、本校での教育活動に積極的に取り組む意欲のある生徒を募集する。</li> <li>○ スポーツ・文化活動において優れた実績や能力があり、入学後も継続して積極的に活動する意志のある生徒を募集する。</li> <li>○ 生徒会活動またはボランティア活動等に積極的に取り組める生徒を募集する。</li> </ul>
---------------------------------	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
確かな学力と規範意識の育成	<p>(1) 基礎学力の定着・向上を図るために、「ユニバーサルデザインの授業」を取り入れて授業を実施する。〔誰一人取り残さない教育の推進〕</p> <p>[活動指標:「ユニバーサルデザインの授業」の啓発と教員アンケートの実施]</p> <p>[成果指標:「ユニバーサルデザインの授業」の認知度 90%、基礎力診断テストの学習到達度ゾーンを1つ以上向上させる生徒の割合 30%]</p>	<p>(1) より良いユニバーサルデザイン授業を実施するために、2学期は全職員が最低1教科授業見学を行い、ユニバーサルデザイン授業がどの程度実施されているか検証し、教職員同士での情報共有や改善を積極的に行い、管理職も授業見学する中で適宜、助言・指導を行い授業改善に取り組んでいる。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインの授業の認知度 92%</li> <li>・基礎力診断テストの学習到達ゾーン上昇割合 10.7%</li> </ul>	◎
	<p>(2) 生徒の自主自立の精神の育成〔自己肯定感を高める教育の推進〕</p> <p>[活動指標:生徒発案企画の啓発]</p> <p>[成果指標:企画と実施年5件以上]</p>	<p>【成果指標】</p> <p>(2) 生徒の学校満足アンケート実施「白山高校に入学してよかった」と答えた生徒95%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高田短期大学出前講座にて、進路実現や自己理解、自己肯定感を涵養する講座の実施(5回)</li> </ul>	※
	<p>(3) 卒業生を招いた講演会を実施、実際の働く現場や上級学校を訪問する機会を設け、働くことや上級学校で学ぶことを具体的に想像し、主体的な進路選択と高校での学習の充実に役立てることができるよう支援する。〔キャリア教育の推進〕</p> <p>[活動指標:実施回数 年間2回以上]</p> <p>[成果指標:事後アンケートによる肯定的な評価 80%以上]</p>	<p>(3) 卒業生が就業している企業が1学期スポーツ大会時に社会貢献の一環及び企業説明を兼ねてキッチンカーで来校し生徒と卒業生徒の交流を実施し、生徒に好評であった。満足度100%</p>	※
	<p>(4) 生徒の人権意識の向上に努める。〔よりよく生きようとする態度の育成〕</p> <p>[活動指標:人権LHRの実施回数 各学年各学期1回以上・年間4回以上、人権講演会年間2回以上]</p> <p>[成果指標:人権意識が向上したと実感した生徒の割合 70%以上]</p>	<p>(4) 部落差別問題について1年生の部落問題に対する認識が低いことから令和7年度3学期に外部講師を招き「部落差別問題」について学習、また2年3年については各HRで「部落差別問題」について学習。3学期に、人権意識の土台作りとして全学年対象に教頭・生徒指導部で講話を実施。</p> <p>【成果指標】</p> <p>人権意識が向上したと答えた生徒の割合 72%</p>	※
	<p>(5) 生徒の規範意識・社会性を育成するために、登校指導、下校指導にて交通指導、身だしなみの指導に取り組む。また日々の生活の中で生きていくために必要となる力を養う。</p> <p>【活動指標:登校・下校指導を毎日行う】</p>	<p>(5) 全職員で声掛けを実施していく中で、生徒の規範意識レベルは確実に向上している。また、遅刻指導については「登校遅刻」と「授業遅刻」に分けてきめ細かく指導。</p> <p>【成果指標】</p>	※

	<p>頭髪服装指導週間実施回数 年間3回以上 遅刻指導月間実施回数 年間2回以上】 【成果指標：登校・授業遅刻件数30%減】 (6) 自他を大切に、命を大切にする心を育む教育活動を充実させる。〔よりよく生きようとする態度の育成〕 【活動指標：生徒向け講演会等を年3回以上実施、いじめ防止アンケートの学期1回実施】 【成果指標：自他や命を大切にする心が向上した生徒の割合 90%以上】</p> <p>(7) 授業における言語活動の充実をさらに推進するため、学校図書館を活用し読書を勧める。〔探究活動の推進〕 【成果指標：図書館の延べ利用者数を前年度比10%増】</p>	<p>登校遅刻件数2.5%増 授業遅刻件数17%増</p> <p>(6) 1学期終業式直前に、生命の教育研究所代表の出口氏に來校頂き「命」「生きること」の大切さと難しさについて講話いただき、成果目標の90%以上を達成 2学期には防災意識の向上を目的として防災教室を実施。90%以上の生徒が「自他の命を守ることの大切さを意識した」と回答 (7) 読書の習慣を呼びかけ 【成果指標】 広報発行・企画展示9回、図書館イベント2回、「白山高校生に読んでほしい本」7月発行 図書館入館者数 1501人 前年度比10%減</p>	<p>※</p> <p>※</p>
<b>改善課題</b>			
<p>改善課題：遅刻に対する規範意識と学校への意欲や人間関係等 改善策：担任や学年、生徒指導の面談による遅刻指導をすることで遅刻に対する規範意識を醸成する、また学校への意欲や人間関係の悩みを聞くことで改善策を一緒に考え、少しでも減らしていけるように導いていく。</p>			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>地域とともにある学校づくりの推進</p>	<p>(1) 3年生の長期インターンシップを通じて、働く意義、社会人としての態度、コミュニケーション能力を高める。〔協働の学びの機会の確保〕 【活動指標：事業所訪問2回以上】 【成果指標：事業所アンケートで良好80%以上】</p> <p>(2) 地域連携にもとづいたキャリア教育推進の一環として、地域に関わる事業所や関係機関と連携し、キャリア教育を推進し、進路指導の充実・改善に取り組む。事業所・上級学校の声を生徒に直接届ける取組を行い、より充実した進路選択の機会を設ける。 〔地域に根ざした教育の推進〕 【活動指標：外部人材の招聘または地域の事業所や関係機関との連携による教育活動年間8件】 【活動指標：年間20回以上の情報提供】 【成果指標：学校斡旋による就職内定率95%以上】</p> <p>(3) 課題を抱えた生徒一人ひとりの就職(進学)に対応するため、きめ細やかな生徒保護者面談を行い、進路実現につなげる。〔学びに向かう力を育む教育</p>	<p>(1) 担当教諭が毎回の授業で事業所訪問 【成果指標】 アンケート結果で良好が88.9%</p> <p>(2) 【活動指標】 年8回実施。情報提供200回以上。就職内定率94%各学年の進路ガイダンスを実施。キッチンカーイベント、卒業生と語る会には障がい者就業・生活支援センターの方に参加協力等。</p> <p>(3) 卒業年度の生徒対象の進路講話の充実ときめ細かい面接指導実施。1年2年については卒業年度を見越しての進路実現に向</p>	<p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p>

	<p>の推進]</p> <p>[活動指標：生徒との面談 10 回以上、保護者との面談 2 回以上]</p> <p>[成果指標：生徒の希望進路実現 95%以上]</p> <p>(4) 地域と連携した校外活動の充実</p> <p>[活動指標：例年お世話になっている地域の事業所との連携を保つための連絡件数 20 事業所以上]</p> <p>[成果指標：地域の事業所と実際に連携できた件数 10 件以上]</p> <p>(5) ICT 推進委員会の充実、ICT 分野における校内研修の実施 [ICT の活用による学びの推進]</p> <p>[活動指標：ICT 分野における校内研修の実施 3 回以上]</p> <p>[成果指標：校内研修における職員満足度 80%以上]</p> <p>(6) 地域美化のために、年に 1 回以上家城クリーン作戦等で地域のごみ拾いを実施する。〔地域活動に根ざした教育の推進〕</p> <p>地域・生徒・教職員計 50 名以上の参加</p> <p>(7) 情報提供による信頼の構築</p> <p>[活動指標：地域や報道機関への資料提供年 5 回以上]</p> <p>[活動指標：本校 HP 更新年 12 回以上]</p> <p>インスタグラムの更新については随時]</p>	<p>けて就職支援コーディネーターによる面談を本年度より早期に実施。</p> <p>【成果指標】</p> <p>面談回数 73 回 保護者面接 3 回 進路実現 96%</p> <p>生徒の特性にある企業の斡旋。進学へのサポートの充実を実施。</p> <p>(4) 地域とのクリーン作戦を 6 月に実施</p> <p>地域連携：インターンシップにて 9 事業所と連携、また 2 年生総合的な探究の時間において津市役所、JR 東海など 5 事業所との連携を実施。</p> <p>(5) 情報コミュニケーション科と英語科がリーダーシップをとり「生成 AI」における授業や校務での積極的な利用に向けての研修実施（合計 3 回）</p> <p>(6) クリーン作戦 6 月に実施済み 60 名以上の参加者</p> <p>(7) HP 更新 20 回以上更新、インスタグラムについては学校行事をリアルに更新し生徒・保護者・卒業生・地域住民から高い評価をえている。</p>	<p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p>
<p>生徒のための教職員組織づくりの推進</p>	<p>(1) 全教職員による進路指導がよりきめ細かく行えるよう情報提供（就職・進学）に努める。</p> <p>[活動指標：7 月以降、教員への求人状況、応募状況、内定状況、進学状況を毎月 1 回以上発信する]</p> <p>[成果指標：希望進路実現率 95%以上]</p> <p>(2) 教職員の人材育成を図るため、コンプライアンスミーティングを含めた校内研修の実施に取り組む。</p> <p>[活動指標：校内研修の実施回数 年間 5 回以上]</p> <p>[成果指標：校内研修における職員満足度 80%以上]</p> <p>(3) 困難な状況にある生徒に対して、チーム学校として組織的な対応や支援を行う。</p> <p>[活動指標：教職員が情報共有を密に行い、必要に応じてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門家と連携して支援を行うとともに、適切な支援方法を研修し、組織的な対応力の向上に努める。]</p> <p>[成果指標：校内研修年間 1 回以上実施]</p> <p>(4) ICT 等のあらゆる手段を活用し、スクールカウンセラーと生徒や保護者とのつながりの継続を図る。</p> <p>[活動指標：保護者へのカウンセリング日程の連絡</p>	<p>(1) 進路状況等について職員会議にて情報を適宜提供している。希望進路実現率 96%</p> <p>(2) コンプライアンス MT・リスクマネジメント研修等 8 回実施</p> <p>(3) 毎月月末に開催する拡大生徒指導委員会にて特別に支援が必要な生徒等の情報共有を実施し課題や今後の対応を協議・共有し教職員が一人で抱え込まない体制を構築し、状況に応じて管理職が助言・支援を実施</p> <p>(4) 保護者のカウンセリング利用 5 件</p>	<p>※</p> <p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p>

	<p>を年3回以上実施]</p> <p>[成果指標：保護者のカウンセリング利用、年5件以上]</p> <p>(5) 地域から信頼される学校づくりを目指す。 [成果指標：「学校信頼向上委員会」を年3回開催]</p> <p>(6) 学校における働き方の改革を図るため、学校安全衛生委員会で進捗を管理する（総勤務時間縮減の推進）</p> <p>[活動指標：① 定時退校日の設定（月1回） ② 部活動休養日の設定（週1回） ③ 会議スマートルールの適用 ④ 学校閉校日を設ける ⑤ SSSを活用した教職員の負担軽減]</p> <p>[成果指標：①定時退校日に定時退校できた教職員の割合 85%以上 ②部活動休養日に休養できた部活動の割合 85%以上 ③60分以内に終了できた会議の割合 70%以上 ④学校閉校日を1日以上設ける ⑤1人あたりの月平均時間外労働時間 30時間以下 ⑥1人あたりの年間休暇取得日数 令和6年度（12.54日）比1日増 ⑦年360時間・月45時間を越える時間外労働者 0%]</p>	<p>(5) 6月・11月・3月開催</p> <p>(6) 毎月開催（2月に1回産業医来校し助言）</p> <p>【成果指標】</p> <p>①定時退校毎月1回実施 定時退校の割合90%</p> <p>②各部活動最低週1回休養割合は100%</p> <p>③60分以内に終了できた会議の割合80%</p> <p>④8月に4日間設定</p> <p>⑤16.4時間</p> <p>⑥15.9日</p> <p>⑦0%</p>	<p>※</p> <p>※</p>
<b>改善課題</b>			
<p>地域の事業所と更に連携を深めるため、地域との橋渡しとなる教員が今後も増えていく必要がある。課題解決学習も、地域から課題を提供していただき、地域・教員・生徒が一体となり解決策を模索していく活動を充実させたい。</p>			

## 6 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>多様な生徒が在籍する中で、生徒一人一人の状況に応じた個別指導や支援がこれまで以上に求められている。その結果、教職員の業務負担は増加傾向にある。</p> <p>このような状況を踏まえ、校内の業務の見直しや分担の工夫を進め、教職員が本来注力すべき教育活動に専念できる環境を整えるとともに、働き方改革を一層推進していく。</p>
----------------------------	--

## 7 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>生徒一人一人が自己理解・相互理解を更に深め、よりよい集団作りに貢献できる力を育むため、体系的なソーシャルスキルトレーニングプログラムを策定、実施する。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>SC・SSW等について、保護者が利用しやすい分かりやすい案内方法を工夫し、研修内容を生かし、組織的な対応力のさらなる向上を図りながら、関係機関と連携した支援を今後も継続していく。</p>